令和８年度 病害虫発生予察注意報 第２号

令 和 ８ 年 ８ 月 ５ 日
千葉県農林総合研究センター長

シロイチモジヨトウの多発生に注意

１．注意報の内容

（１）対象作物及び病害虫名：ネギ・花き類、シロイチモジヨトウ

（２）発生地域：県内全域

（３）発 生 量：多

２．注意報発令の根拠

（１）県内４地点のフェロモントラップ調査において、７月（５半旬まで）の１日当たり誘殺数は 3.09 頭（平年値 1.13 頭）と、多発年であった令和６年（3.21 頭）、令和７年（3.17 頭）に次いで多く、平年に比べて多く推移している（図）。

（２）７月 21 日に発表された気象庁の３か月予報によると、８月の気温は高い確率が 50%であり、チョウ目害虫の発生・増加に好適な環境が続くことが予想される。

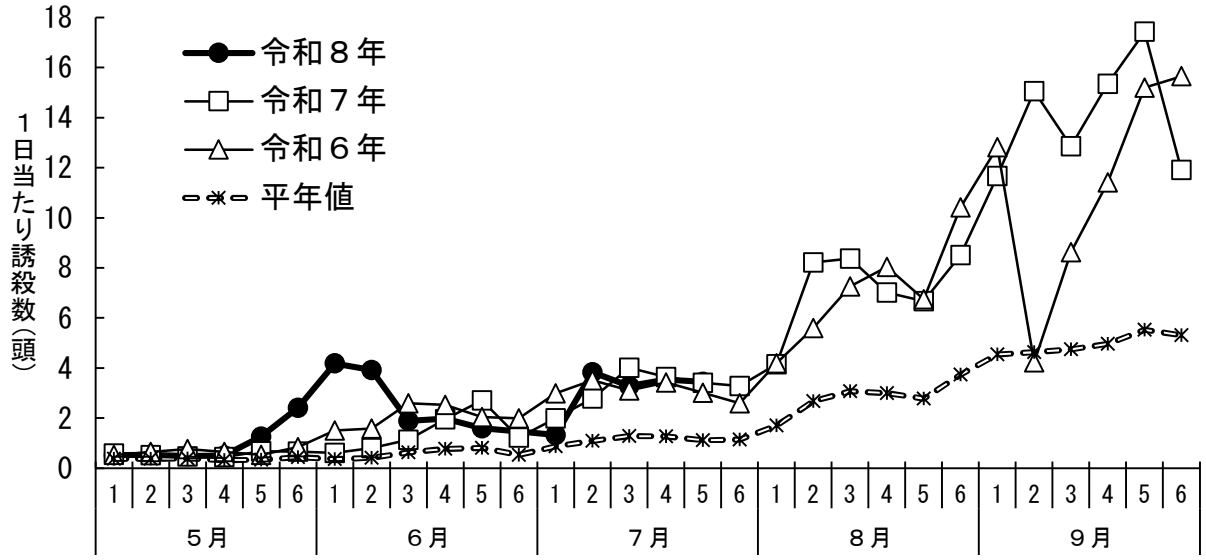


図　フェロモントラップ調査におけるシロイチモジヨトウ誘殺数（５～９月、半旬毎）

注）誘殺数は県内４地点の平均値

なお、平年値のうち、５月のデータは調査年数の少ない１地点を除く３地点の平均値



写真１　ネギの葉に産卵された卵塊
（黄白色～灰白色の短い毛に覆われた卵塊）



写真２　食害を受けたネギ
（葉身の内側から表皮を残して食害）



写真３　食害を受けたカーネーション
（葉の表皮を薄く残して食べ、白く透けた状態になる）



写真４　カーネーション葉を食害する中齢幼虫
（胴部側面の明瞭な白線が本種の特徴）

３．防除対策

（１）耕種的・物理的防除

ア　ほ場内及びその周辺の雑草防除に努める。

イ　施設栽培では防虫ネット等の使用により、成虫の侵入を防ぐ。

ウ　ほ場をよく観察し、卵塊（写真１）や若齢幼虫が群生している葉を見つけ次第、除去する。

エ　食害を受けた葉（写真２・３）を幼虫ごと除去する。また、残さを適切に処分する。

（２）化学的防除

ア　常発地ではフェロモントラップを設置するなどして発生消長を確認し、適切な時期に幼虫の防除を行う。

イ　交信かく乱剤を使用する。

ウ　中齢幼虫（写真４）以降になると薬剤の効果が著しく低下するので、圃場の見回り等による早期発見に努め、若齢幼虫のうちに表１及び表２を参考に薬剤散布により防除する。

エ　抵抗性を生じやすいので、ＩＲＡＣコードが異なる薬剤をローテーションで選択する。

表１　ねぎ・わけねぎ（わけぎ、あさつきを除く）のシロイチモジヨトウに対する主な登録薬剤

（令和８年８月１日現在）

ＩＲＡＣコード※１	農薬の名称	希釈倍数・使用量	使用時期	使用回数※２
３Ａ	トレボン乳剤	1,000 倍・※３	収穫 21 日前まで	２回以内
５	ディアナＳＣ	2,500～5,000 倍・※３	収穫前日まで	２回以内
６	アニキ乳剤	1,000～2,000 倍・※３	収穫３日前まで	３回以内
13	コテツフロアブル	2,000 倍・※３	収穫７日前まで	２回以内
22Ａ	トルネードエースＤＦ	1,000～2,000 倍・※３	収穫 14 日前まで	２回以内
28	プリロッソ粒剤オメガ	６kg/10a	収穫前日まで	２回以内
28	ベネビアＯＤ	2,000 倍・※３	収穫前日まで	３回以内
30	グレーシア乳剤	2,000～3,000 倍・※３	収穫７日前まで	２回以内
30	ブロフレアＳＣ	2,000～4,000 倍・※３	収穫前日まで	３回以内
ＵＮ	プレオフロアブル	1,000 倍・※３	収穫３日前まで	４回以内

※１　ＩＲＡＣコードとは、殺虫剤の作用の仕組みの分類を表すものである。

※２　薬剤名が異なっていても同じ成分を含む薬剤があるので、散布前に確認し、同じ成分がある場合、合計使用回数が制限を超えないように注意する。

※３　使用量は 100～300Ｌ/10ａ

表２　花き類のシロイチモジヨトウに対する主な登録薬剤（令和８年８月１日現在）

ＩＲＡＣコード※１	農薬の名称	希釈倍数・使用量	使用時期	使用回数※２	作物名
３Ａ	アディオン乳剤	2,000 倍・※３	発生初期	６回以内	花き類･観葉植物（はぼたんを除く）
６	アファーム乳剤	1,000 倍・※３	発生初期	５回以内	花き類･観葉植物
13	コテツフロアブル	2,000 倍・※４	発生初期	２回以内	花き類･観葉植物（きく､ストックを除く）
15	ノーモルト乳剤	2,000 倍・※３	発生初期	２回以内	花き類･観葉植物
18	ロムダンフロアブル	1,000 倍・※３	発生初期	５回以内	花き類･観葉植物（きくを除く）
３Ａ	アグロスリン乳剤	2,000 倍・※３	発生初期	６回以内	カーネーション
３Ａ	トレボン乳剤	1,000 倍・※３	－	６回以内	宿根かすみそう
３Ａ	トレボンＥＷ	1,000 倍・※３	－	６回以内	宿根かすみそう
３Ａ	テルスターフロアブル	4,000 倍・※３	－	３回以内	宿根かすみそう
15	アタブロン乳剤	2,000 倍・※３	発生初期	５回以内	宿根かすみそう
15	カスケード乳剤	4,000 倍・※３	発生初期	３回以内	宿根かすみそう スターチス
18	マトリックフロアブル	2,000 倍・※３	発生初期	４回以内	トルコギキョウ

※１　ＩＲＡＣコードとは、殺虫剤の作用の仕組みの分類を表すものである。

※２　薬剤名が異なっていても同じ成分を含む薬剤があるので、散布前に確認し、同じ成分がある場合、合計使用回数が制限を超えないように注意する。

※３　使用量は 100～300Ｌ/10ａ

※４　使用量は 150～300Ｌ/10ａ

注　農薬の使用に当たっては、最新の農薬登録情報を確認し、製品ラベルに記載された使用基準等を守り適正に使用する。

・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。
https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/

・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。
https://pesticide.maff.go.jp/

問合せ先
千葉県農林総合研究センター病害虫防除課
〒266-0014　千葉市緑区大金沢町 180 番地 1
TEL 043(291)6077　FAX 043(226)9107
E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp